第6講 【系統地理編】農林水産業，食料問題

PART 4 現代の農業

Chapter 1　現代の農業

目標　現代のフードシステムを統括する穀物メジャーとは何か，理解しよう。
農業技術が発展することの代償を考えよう。

1　グローバル化する現代の農業

・〔　　　　　　　　　　　　　〕：農産物の**生産**から**流通**，**消費**に至る，食料を供給するしくみ。

・近年，国際的な農産物の貿易が活発になり，〔　　　　　　　　　　　　　　〕を展開する**穀物メジャー**がフードシステムを統括するようになった。

・〔　　　　　　　　　　　　〕：集荷から輸送，販売，研究開発に至るまで幅広い事業を展開し，多くの国に活動拠点を有する**多国籍企業**。**アメリカ合衆国**の企業が多い。
→大規模な農業用機械，**穀物エレベーター**の設置や，
〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕の開発などを行い，労働生産性が高い農業を展開する。穀物メジャーの動向が世界の**穀物価格**に大きな影響を与える。

・発展途上国に資本を投下して近代的な農業を導入する一方で，現地の**環境破壊**や**自給作物不足**などの問題ももたらしている。

企業的な農業経営

穀物エレベーター

2　農業技術の発展とその代償

1. 農業技術の発展と生産性の向上

・人間は古くより，技術を発展させ，農牧業の**生産性**を高めてきた。

・本来農業に不向きな地域でも，**灌漑**，**化学肥料**や**農薬**の使用などにより自然条件を克服。

・〔　　　　　　　　　〕：アジアやラテンアメリカの発展途上地域で，**高収量品種**を導入して**穀物**の増産を目指した農業改革。多くの地域で自給穀物の増産に成功。

・〔　　　　　　　　　　　　　　　〕：大規模な**肉牛肥育施設**。主に新大陸で効率的な畜産を可能にした。

2. 発展の代償

・過度な**灌漑**による水資源の枯渇や土壌の**塩類化**，農薬による汚染などの〔　　　　　　　　　〕が生じている。

・残留農薬やフィードロットでのホルモン剤投与，遺伝子組み換え作物が人体に与える影響を懸念する声もある。

・また，高収量品種や大規模設備の導入のためには資本力が必要であるため，発展途上国での農民間の格差や地域格差が広がるという問題もある。

フィードロット

土壌の塩類化

まとめ

農業の生産から流通，研究開発に至るまでの幅広い事業を展開する企業。

環境問題や品質への懸念，地域格差の拡大など。

Chapter２　日本の農業

目標
1970 年代に米の生産調整が行われた背景を理解しよう。
現在日本で行われている，農産物生産拡大の取り組みを知ろう。

1　日本の農業の特徴

・山がちな日本では国土に対する農地の割合は 12％程度であり，１人当たりの農地面積も**小さい**。
　→狭い土地に**化学肥料**などを使用することで，面積当たりの収穫量は非常に〔　　　　　〕なっている（**土地生産性が高い**）。
・先進国の中では農業従事者の割合が高く，**労働生産性は低い**。
・かつては**家族経営**での農家が多かったが，若者の農業離れが深刻となったため，企業単位での農業進出や，**外国人技能実習生**の受け入れなどをしている。

2　日本の米に関わる政策の変遷

第二次世界大戦中～戦後	・食料難を克服するため，**食糧管理制度**を導入。 ・政府が一定価格で米を買い取るため，農家は価格低下の心配をすることなく米の増産に打ち込んだ。
1970年代頃	・**食の多様化や西洋化**が進み，米の消費量が停滞した。 ・**米余り**の状態になり国の財政を圧迫したため，政府は〔　　　　　　　　〕に転じて，**生産調整**を実施。
1995年	・食糧管理制度が廃止される。 ・市場競争が導入され，〔　　　　　　〕の生産などの工夫が行われる。
現在	・米の生産は安定し，消費者は安定した価格で高品質の米を食べることができている。

3　農畜産物の貿易自由化と，現在の日本の農業

1. 農畜産物の貿易自由化とその影響

・第二次世界大戦後，**GATT**（のちの〔　　　　　　　〕）の結成によって**自由貿易**への流れが強まった。

・ 1990 年代，**オレンジ**と〔　　　　　〕の輸入自由化。外国産の安い農産物との競合が強まり，国内産業を圧迫。

・米は，**最低輸入量**（〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕）を受け入れているが，自由化されているわけではなく，米作農家は保護されている。

2. 現在の日本の農業

・若者の**農業離れ**や，価格競争力の高い**外国産の農畜産物の流入**などが課題。

・食の安全性をアピールした**ブランド化**や，農業経営者が加工・販売までを一手に担うことで付加価値を高める〔　　　　　　　　　　〕を図るなど，課題解決のための施策が進んでいる。

・民間企業の農業進出により，家族経営ではできなかった大規模な農地を使用した農業経営や，**ICT** を積極的に活用してより生産性を高める工夫も行われている。

・近年では，都市に暮らす人々が農村で余暇を過ごし，農業をアクティビティとして楽しむ〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕が注目されている。

ICT の活用

アグリツーリズム

まとめ　食の多用化や西洋化で需要が減少した。
農業の大規模化や ICT の活用など。

第6講 PART 4 確認問題

1 現代の農業について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 農業に関する広範な事業を展開する企業をアグロフォレストリーという。
② 近年，穀物メジャーがフードシステムを統括するようになった。
③ 多くの国に活動拠点を有する多国籍企業は，アメリカ合衆国に多い。
④ 発展途上国に近代的な農業を導入した結果，環境破壊などの問題が生じた。

2 アメリカ合衆国などに見られる肉牛の肥育場の名称はどれか。

① 穀物エレベーター　② サイロ
③ シャレー　④ フィードロット

3 アジアなどの発展途上地域で高収量品種を導入し，穀物の増産を目指した農業改革の名称はどれか。

① 産業革命　② 白い革命
③ ピンクの革命　④ 緑の革命

4 農業の発展による代償として**正しくないもの**はどれか。

① 過度な灌漑による土壌の酸性化
② 農薬による汚染
③ 遺伝子組み換え作物が人体に与える影響の可能性
④ 発展途上国での農民間の格差や地域格差

5 日本の農業について述べた文として，正しいものはどれか。

① 日本の国土に対する農地の割合は30%ほどである。
② 粗放的な農業が展開されており，面積当たりの収穫量は少ない。
③ 先進国の中では，比較的農業従事者の割合が高い。
④ 外国人技能実習生の受け入れは，国の法律で認められていない。

6 日本の米に関わる政策の変遷について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 国が食糧管理制度を導入したのは，高度経済成長期にあった1960年代後半である。
② 1970年代頃には食の多様化が進み，米の消費量が減少した。
③ 米が余ったことにより，政府は減反政策を実施した。
④ 1995年に，食糧管理制度は撤廃された。

7 日本で1990年代に輸入自由化された果実と肉類の組み合わせとして，正しいものはどれか。

① オレンジと牛肉　② オレンジと豚肉
③ りんごと牛肉　④ りんごと豚肉

8 現在の日本の農業について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 安価な外国産の農畜産物の流入による価格競争の問題を抱えている。
② 農業経営者が加工，販売までを一手に担う6次産業化が図られている。
③ 肉類のブランド化を進める国の政策が奏功し，若者の農業従事者が増加している。
④ ICTを積極的に活用して，より生産性を高める工夫も行われている。

第 6 講　PART 4　確認問題 解答

1 解答：①

各種資材の調達から，農産物の加工，流通に至るまでに関わる広範な事業をアグリビジネスといい，それを展開する企業を**穀物メジャー**という。なお，アグロフォレストリーは林業と農業を統合した土地利用の方法である。

2 解答：④

アメリカ合衆国などに見られる肉牛の肥育場を**フィードロット**という。フィードロットでは，生後 1 年半ほどの牛をトウモロコシを改良した濃厚飼料で肥育する。

3 解答：④

アジアなどの発展途上地域で高収量品種を導入し，穀物の増産を目指した農業改革を**緑の革命**という。

4 解答：①

過度な灌漑によって**土壌の塩類化**がもたらされる。灌漑水に含まれている塩分が毛管現象により地表面に到達し，塩類の集積が進む。

5 解答：③

日本は先進国の中では比較的農業従事者の割合が高く，そのため**労働生産性は低い**傾向にある。①は誤文。日本の国土に対する農地の割合は約 12%である。②も誤文。日本では狭い土地を使用した集約的な農業が主流。④も誤文。農業従事者の減少の対策として，国の主導で外国人技能実習生の受け入れなどをしている。

6 解答：①

食糧管理制度は，1942 年に制定された。食糧管理制度では，政府が決めた特定の食糧について，政府が直接買い入れ，販売を管理した。

7 解答：①

1990 年代に輸入自由化された果実は**オレンジ**，肉類は**牛肉**である。

8 解答：③

肉類のブランド化を進めていることは事実であるが，**若者の農業離れ**は依然として続いている。